

先輩職員インタビュー



“男の産休” 取得者

“男の産休”の
使い方や取得
した感想は？



市民協働推進課 主任
笹 森 俊 哉

長女が産まれた際に出産休暇を取得しました。コロナ禍での出産で、産後の入院中は妻や子どもと面会が出来なかったため、退院のタイミングに合わせて休暇を取得しました。

休暇中は、出生届などの必要書類を作成・提出をしたり、沐浴の練習や子どもと一緒にお昼寝をしたり…と、その時にしかできない大切な時間を過ごすことができました。



下水道施設課 主任
前 川 公 希

人数の少ない専門職のため、年次休暇とは別に出産休暇を取得することによって、業務上で迷惑をかけてしまうのではないかと心配でしたが、休暇を取得することによって、出産に関する各種届出や助産院での産前・産後ケアの利用、検診の付添をすることができました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で両親学級などが中止となり、出産・育児に対する不安を解消する機会が無いなか、助産院での産前・産後ケアを利用できたことは、大変有意義なものでした。



市民協働推進課 主事
坂 本 光

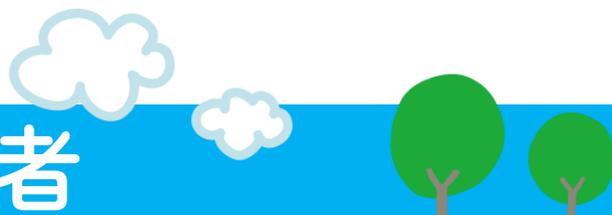
2人目の子どもの出産の際に出産休暇を取得しました。1人目の子どもの面倒を見てくれる親戚が市内にいなかったため、出産休暇を取ることができてとても助かりました。娘と二人きりで過ごすことがあまりなかったなので、休暇中にたくさんお話しをして、有意義な時間を過ごすことができました。



消防本部通信指令課 消防主事
本 間 貴 大

新型コロナウイルスの影響で立会や面会はできませんでしたが、退院後の妻のフォローや育児に休暇を使いました。年末の取得でしたので、非常に忙しく、人員管理も難しい時期で職場の方々には大変迷惑をかけてしまいましたが、休暇の取得を快諾していただきました。

第一子であったため、夫婦共々不慣れな点が多く苦戦しましたが、出産休暇を取得し一度仕事から離れることで、しっかり子どもと向き合うことができました。このような休暇制度があることと、職場の方々のサポートには大変感謝しています。



“男の産休” 取得者

先輩職員インタビュー



“男の産休”の
使い方や取得
した感想は？



中央消防署東分署 消防主事
梶 暁 裕

夫婦で札幌の親元へ戻り、両親に相談しながら出産と子育てに臨みました。半月ほど仕事から離れるため、事務の引継ぎ等に不安がありました。

初産であったため、不安もありましたが、妻に寄り添って不安の解消に努めることができたため、休暇を取得できて良かったと感じています。



西消防署阿寒湖温泉支署 主任
八木 澤 圭

出産立会や退院後の妻の家事軽減、赤ちゃんのお世話をするために出産休暇を取得しました。出産後の入院生活は慣れない環境で、妻だけでは負担がかかります。日中の面会時間に行き、夜中の様子などを聞いたり、おむつ交換を一緒にすることで妻の負担を減らし、早い段階で育児に参加できました。コロナ禍の影響で面会は難しい状況かと思いますが、その分退院後に父親として活躍することが大切だと感じます。

自分が抱えている業務の引継ぎや、出産休暇の取得に対する周囲の反応が心配でしたが、取得経験がある先輩方も多く、快く休暇を取得することができました。また、事前に出産予定を上司や同僚に伝えておくことで、スムーズに業務の引継ぎができました。

令和2年7月に次男が出生しました。出産休暇を取得し、妻と長男、長女と一緒に赤ちゃんのお世話をする中で、家族の絆が深まりました。なにより退院後の女性は、男性では想像できないほど身体的・精神的に大変だと思います。その期間に協力しあえたことで、妻が喜んでくれたことが一番でした。



介護高齢課 主事
川 畑 勇 人

出産は新築を建てている時期と重なりましたが、休暇取得により育児・出産に伴う手続きを行うことができました。

休暇取得の際、心配は特にありませんでした。自分の仕事と調整しながら取れましたし、同じ担当内に仕事を任せられる方々がいましたので、環境にも恵まれていたと思います。職場や役職が違えば、休暇の取得日数も違っただろうなとは思いますが。

育児に参加することで、子どもとふれあう時間が少しでも確保できることはとても良いことですし、何より妻の負担を少しでも軽減できることにこの休暇の意義を感じました。特に、生まれてすぐは子どもに付きっきりですから、妻の体力回復のためにサポートできたことは良かったと思います。

振り返ると、出産休暇は育児や家事に没頭する休暇でした。育児参加休暇は、育児にも少し余裕が出てきたところでもあって、家族の時間を過ごすことができた休暇でした。



“男の産休” 取得者

